

10

October 2016

Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Brochure

Symphony

No. 94

Sun. 9th October
Tokyo Opera City
Series

No. 645

Sat. 15th October
Subscription
Concert

No. 98

Sun. 16th October
Niigata
Subscription
Concert



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スターン
正指揮者	飯森範親
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター グレブ・ニキティン
水谷 晃

アシスタント・
コンサートマスター 田尻 順
廣岡克隆

会 長 横川 端
理事長 澤田秀雄
副理事長 平澤 創
依田 巽

専務理事 大野順二
理 事 阿部武彦
池辺晋一郎

伊藤美樹
大橋 博
庄司 薫
永山 治
南部靖之
西室泰三

福川伸次
渡邊秀男
監 事 田村慎太郎
寺西基之

評議員長 金山茂人
評議員 梅沢一彦 篤海量明

片山泰輔 西村 朗
星 久人 増岡聡一郎

松木康夫 山下芳彦
山添 茂 横川 寛

特別顧問 飯島延浩
福田紀彦

山田長満
最高顧問 金山茂人

【コンサートマスター水谷晃使用ヴァイオリン
(1783年製J.B.ガダニニ)貸与:ヒノキ新業株式会社】

【ハーブ貸与:株式会社環境ステーション】

【ステージ衣装提供:株式会社オンワード樫山】

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
小川敦子
加藤幸子
小関 郁
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
吉川万理
大和田ルース

2nd Violins

○坂井みどり
○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
阿部真弓
河裾あずさ
塩谷しずか
竹田詩織
日野 奏
渡辺裕子

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○山廣みほ
大角 彩
小西応興 ●
鈴木まり奈
永井聖乃
松崎里絵
○多井千洋 *

Cellos

○伊藤文嗣
○西谷牧人
○川井真由美
○黄原亮司
○謝名元 民
大宮理人
樋口泰世

Double Basses

○加藤信吾
○北村一平
○久松ちず
安田修平
渡邊淳子
笠原勝二
渡辺哲郎

Flutes

○相澤政宏
○甲藤さち
濱崎麻里子

Flute&Piccolo

高野成之

Oboes

○荒 絵理子
○荒木奏美
最上峰行
池田 肇
篠崎 隆

Clarinets

○エミニュエル・ヌヴー
○吉野亜希菜
小林利彰
近藤千花子

Bassoons

○福井 蔵
○福士マリ子
坂井由佳
前関拓紀

Horns

○上間善之
○大野雄太
○ジョナサン・ハミル
大和田浩明
阪本正彦
鈴木 優
曾根敦子

Trumpets

○佐藤友紀
○澤田真人
大隅雅人
野沢岳史 ●

Trombones

○大馬直人
○荻野 昇
○鳥塚心輔

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

○渡辺 功

Timpani&Percussions

○奥田昌史
○新澤義美
武山芳史
綱川淳美

Harp

○景山梨乃

Librarians

★武田英昭
前田健一郎

Stage Managers

★今村和弘
山本 聡

栄誉団員

井伊 準 ◆
鷹栖光昭 ◆

楽団長

大野順二

編成局長

バーソネル・マネージャー

藤原 真

楽団委員

大隅雅人(議長)
大野雄太(書記)
相澤政宏
北村一平
清水泰明
藤井良太

事務室長

辻 敏

事務局

池田瀬津子
□尾木貴雄
■梶川純子
佐藤雄己
高瀬 緑
□豊山 悟
長久保宏太郎
美濃部 敦
山口翔梧
山田道子
桐原美紗 *
竹内裕子 *
福田綾子 *

クラシックスペース★100

安藤史子 甲田幹雄
吉田典正

囃 託

岩本良彦 水島顯彦
堤 鳴木

顧問税理士

磯村文靖
田村慎太郎

顧問公認会計士

松本 傳

顧問弁護士

内田剛弘

名誉団友

深江泰輔 ◆ 三木晴雄

団 友

天野佳和 杉浦直基
新井 汎 鈴木一輝
石川晴代 芹澤英雄
岩澤淳子 田中真輔
上原正二 千村雅信
上原雅昭 十角正司
上原未和 中塚和良
内田彬雄 中塚博則
内田乃例子 中塚洋子
宇都 実 中山 智
梅田 学 西依智子
大塚正昭 西脇秀治
大慈展男 野村真澄
音川健二 馬場隆弘
加護谷直美 原田美保子
桂 哲郎 ペンテン・
金沢 茂 ボーマン
久保田一穂 升田俊樹
熊谷仁士 丸山正昭
小林照雄 三浦正信
小林亮子 宮原祐子
佐川聖二 宮本直樹
佐々木真 宮本 睦
野野明彦 森みさ子
諸橋健久
山元 勲

◎首席奏者 ○フォアシュビラー ●インスペクター

■本部長 □部長 ★チーフ ＊研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い

ご来場の皆様に演奏会を
楽しんでいただくためにご協力下さい

Please keep in mind the following rules, protocol and
etiquette so that all of our guests may enjoy today's concert.



チケットに記載された
座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されて
いる座席番号にのみ有効です。座
席移動はご遠慮ください。また係の者が、チケットを
拝見・確認させていただく場合がございます。

Please be seated at the seat number designated on your
ticket.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、きち
んと装着されているか今一度お確
かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please
check that your device is suitably set before the
performance begins.



開演前に携帯電話、
時計のアラーム音、
電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動す
る音が響きますので、電源は必ず
切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms
and all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



演奏中の
飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は
思っている以上に場内に響きます
ので、演奏中の開封はご遠慮下さい。のど飴は演奏開
始前までに口の中へ入れておきましょう。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール
袋等、音の出るものは音を立てな
いようにご配慮下さい。演奏中の
私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばん
のチャック等をいじるのも雑音となりますのでご注意
ください。

Please be silent during the performance.



周囲の視界を遮るような
行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広
い帽子や高さのある帽子は脱いで
ご鑑賞ください。またリズムをとる行為も、隣の人
の迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in
a way which could disturb or obstruct the view of those
seated near you.



開演後の入場を
制限させていただきます

開演後のご入場、曲間・楽章間のご
入場は制限させていただきます。
途中入場がある場合は、係員の指示に従って下さい。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は
ハンカチで
押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量は
かなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も
演奏のうちです

フライングブラボーやフライング
拍手はお控え下さい。

The lingering sounds and moments are part of the
performance. Please hold your applause or shouting your
appreciation until the actual end of the performance.



香水は控えめに

Refrain from wearing an excessive amount of perfume.



録音・録画・
写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.

10/9
SUN.

東京オペラシティシリーズ 第94回

2016年 10月9日(日) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.94

Sun, 9th October 2016, 2:00p.m, Tokyo Opera City Concert Hall

創立70周年記念ヨーロッパ公演プレコンサート①

ジョナサン・ノット [指揮] Jonathan Nott, Conductor

水谷 晃 [コンサートマスター] Akira Mizutani, Concertmaster

武満 徹: 弦楽のためのレクイエム (10')

T. Takemitsu : Requiem for String Orchestra

ドビュッシー: 交響詩「海」～管弦楽のための3つの交響的素描 (23')

C. Debussy : "La Mer" trois esquisses symphoniques pour orchestre

第1楽章「海上の夜明けから真昼(正午)まで」

第2楽章「波の戯れ」

第3楽章「風と海との対話」

I De l'aube à midi sur la mer

II Jeux de vagues

III Dialogue du vent et de la mer

ブラームス: 交響曲 第1番 ハ短調 作品68 (44')

J. Brahms : Symphony No.1 in C minor, op.68

I Un poco sostenuto – Allegro

II Andante sostenuto

III Un poco allegretto e grazioso

IV Adagio – Più andante – Allegro non troppo, ma con brio

●主催／公益財団法人東京交響楽団

●特別協賛／株式会社エイチ・アイ・エス

●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

●後援／スイス大使館、プリティッシュ・カウンシル、一般社団法人日英協会



Tokyo Opera City Series No.94

Sun. 9th October 2016, 2:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

Niigata Subscription Concert No.98

Sun. 16th October 2016, 5:00p.m. Ryutopia Concert Hall

Subscription Concert No.645

Sat. 15th October 2016, 6:00p.m. Suntory Hall

イギリス生まれ。ドイツのフランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン交響楽団首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラの音楽監督を経て、2000年よりドイツ・バンベルク交響楽団首席指揮者を16年務める。2017年1月にはスイス・ロマンド管弦楽団の音楽監督に就任する。その抜群のプログラミング・センスに加え、古典から現代曲まで幅広いレパートリーを誇り、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管、シカゴ響等のオーケストラ、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス等の音楽祭へ客演している。東京交響楽団へは2011年10月定期演奏会でデビュー。この共演が決定的となり、翌2012年10月には次期音楽監督の就任を発表。2014年度より東京交響楽団第3代音楽監督を務める。2015年度は出演した全ての定期演奏会が批評家によるコンサート・ベストテン(音楽の友誌上)で票を集めるなど、今最も目が離せない指揮者である。

Jonathan Nott is Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra and Principal Conductor and Artistic Advisor of the Junge Deutsche Philharmonie. In January 2017, he will commence the position of Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande.

A regular guest conductor with the world's leading orchestras, he has worked with the Berlin, New York and Los Angeles Philharmonics, Concertgebouw, Santa Cecilia, Cleveland, Tonhalle, Leipzig Gewandhaus, Dresden Staatskapelle and Bayerische Rundfunk Symphony orchestras. The 2015-16 season saw Nott return to the Wiener Philharmoniker for highly acclaimed performances and a live Sony recording of Mahler's Das Lied von der Erde with the tenor, Jonas Kaufmann and his second visit to the Chicago Symphony.

Nott has a distinguished recording career, including recordings of Gyorgy Ligeti's complete orchestral works with the Berlin Philharmonic for Teldec and an award-winning discography of works by Mahler, Bruckner, Schubert and Stravinsky recorded with his Bamberg Symphony Orchestra under the Tudor Records Label. In 2010 their recording of Mahler Symphony No.9 was awarded the Midem Award for best symphonic recording.

Conductor

Jonathan Nott

ジョナサン・ノット [指揮]

音楽監督 Music Director



10/9
SUN.

東京オペラシティシリーズ 第94回

東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.94 Tokyo Opera City Concert Hall

武満 徹(1930～1996)

弦楽のためのレクイエム

作曲:1957年

初演:1957年6月20日

日比谷公会堂での上田仁指揮 東京交響楽団

第87回定期演奏会

編成:弦5部

武満徹が召されて早20年。メモリアルイヤーに、東京交響楽団が委嘱した彼の初期の代表作を聴く。ちなみに今年は柴田南雄(1916～1996)のメモリアルイヤーでもある。武満と柴田は1958年の夏、NHKのラジオ番組「現代の音楽」で、前年に初演されたばかりの「弦楽のためのレクイエム」を巡り、対談を行なっている。

ストラヴィンスキーの話が有名だ。

1959年4月から5月にかけて、大阪国際フェスティバル協会の招きで日本を訪れ、大阪、東京でN響を指揮したストラヴィンスキーは、前述の番組「現代の音楽」の音源を通じ「弦楽のためのレクイエム」に関心を抱く。そして「この音楽は実にきびしい(intense)。このような、きびしい音楽が、あのような、とても小柄な男から生まれるとは!」との名言をのこす。この一言が「弦楽のためのレクイエム」の評価を高め、武満の名を世界に知らしめる契機となった。なおストラヴィンスキーはNHK訪問とは別に、武満徹のもとを訪れている。

レント～モデレ(モデラート)～レントの楽想が移ろいゆく曲について、作曲者は「レクイエム」という題はメディテーションとして

も良かったのです。瞑想という言葉が、神への排他的な専心を意味するように、一物に専心したい気持ちがこの題を選んだのです。特定の人の死を悼んで書いたものではありません」としながらも「しかし僕はこの曲を書きながら、しばしば(早世した)早坂文雄氏(1914～1955)を想い、その死を悼みました」とも語っている。

早坂文雄に献呈された「弦楽のためのレクイエム」は、東京交響楽団の宝物である。

クロード・ドビュッシー(1862～1918)

交響詩「海」

～管弦楽のための3つの交響的素描

作曲:1903年～1905年

編曲:1905年10月15日パリ、カミーユ・シュヴィヤール指揮
コンセール・ラムルー(ラムルー管弦楽団)

その後改訂、1909年出版

編成:ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、ホルネット2、トランペット3、トロンボーン3、バス・テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ2、弦5部

武満徹が愛したドビュッシー。二人は、水、海、夢などの言葉を通じ「深い絆で結ばれていた」。

水夫としての人生を望むほど、海に恋焦がれていた作曲家それがクロード・ドビュッシーで、実際、友人への手紙などで子供の頃に眺めた大西洋や地中海の記憶、それに旅の思い出を度々つづっている。彼は生涯を通じて海に想いを寄せていたのだ。

奥田佳道

TEXT by Yoshimichi Okuda

そんなドビュッシーが1905年の春に完成させた交響詩「海」は、しかし一般的な意味での描写音楽ではない。なるほど描写も素晴らしいが、それ以上に時間の経過とともに姿を変えゆく海から受ける感銘や心象を、光彩きらめく、独創的なオーケストレーションで描いたのだった。ドビュッシーは「海」を、フランス内陸部のブルゴーニュ地方で休暇を楽しんでいた時期に書き始めている。大好きな海を眺めながら創作のペンをとった訳ではないのだ。

彼は、世紀転換期のパリやウィーンを席卷したジャポニズム、あるいはエキゾティズムを創作に採り入れた、ヨーロッパ最初期の作曲家でもある。「海」の初版楽譜の表紙には、葛飾北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」(富嶽三十六景の第二十一景)の図柄が使われている。日本の美術や工芸品に深いに関心を抱いていたドビュッシーの希望だった。

曲は、ピアノ連弾の楽譜が作成された後、1905年に初演され、その後金管楽器のパートを中心に改訂が施されている。

第1楽章：海上の夜明けから真昼(正午)まで

第2楽章：波の戯れ

第3楽章：風と海との対話

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)

交響曲 第1番 ハ短調 作品68

作曲：1855年構想、1862年、1868年、1874年～1876年
初演：1876年11月4日カールスルーエ、フェリックス・
オットー・デッツォフ指揮 その後改訂(後述)

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット
2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、
トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

外野の思惑もあり、ベートーヴェン(1770～1827)の後継者を意識せざるを得なかったヨハネス・ブラームスが、最初の交響曲の創作に歳月を費やしたことはよく知られている。後継者といってもベートーヴェンとブラームスの生涯に、重なりは全くない。イメージ上のことだ。

いつかは交響曲を。しかしピアニストや指揮者として多忙ゆえ、また自己批判が厳しい性格も手伝い、ブラームスの交響曲への道は、そう簡単には拓け^{ひら}ない。構えの大きなシンフォニーに相応しい管弦楽法を会得する時間にも必要だった。

若き日の名作の列举をお許しあれ。室内楽から発展したセレナード第1番二長調作品11、ヴァイオリンを含まない同第2番イ長調作品16、豪胆な楽想と祈りの情趣を併せ持つピアノ協奏曲第1番二短調作品15、さらにウィーン、プレーメン、チューリヒ、ライプツィヒで順次演奏されていたドイツ・レクイエム作品45は、いずれも素晴らしい音楽だが、見方を変えると、最初の交響曲を導く「オーケストラ曲」でもあったのだ。

Program Note [楽曲解説]

10/9

Tokyo Opera City Series No.94 Tokyo Opera City Concert Hall
SUN. TEXT by Yoshimichi Okuda

1868年9月、35歳のブラームスは、作曲家
家口ベルト・シューマンの末亡人クララ・
シューマン(1819～1896)の49歳の誕生日
を祝うために、滞在先のスイスから挨拶状を
送る。その手紙にはアダージョの旋律が添え
られていた。

「今日、アルペンホルンがこのように響きま
した。高い頂の山から、深い谷から、あなた
に何千回も心からのご挨拶を申し上げます」

交響曲第1番の第4楽章でホルンが奏でる、
あの雄大な調べは14歳年上のヴィルトゥオー
ゾ・ピアニスト、クララ・シューマンへの愛の
贈り物!だった。

前述の作品群以上にブラームスを交響曲
作家に導く音楽が、1873年にようやく創ら
れる。同年11月のウィーン・フィル定期公演
(1873/74年のシーズン第1回演奏会)で作
曲者自身の指揮により初演された「ハイドン
の主題による変奏曲」作品56aだ。ブラーム
スはここでホルン4、コントラファゴット1の
音色や効果をあらためて確認したに違いない。
ちなみにその定期公演のメインはベ
ートーヴェンの交響曲第7番。タクトを執った
のは、ウィーン・フィルのシーズン担当指揮者
にしてブラームスの親友だったオットー・
デッソフ(1835～1892)である。

ハ短調からハ長調への構成も緻密なブ
ラームスの交響曲第1番は、1876年の晩秋
にドイツ南西部のカールスルーエで初演さ
れた。指揮はデッソフ! ブラームスの希望
だった。

初演に続くドイツ各地、ウィーン、イギリス
でのお披露目も好評を博す。しかしこの推
敲好きの作曲家は、オーケストラのパート譜
を回収し、楽譜を印刷に回す直前の1877年
5月、第2楽章にかなり大がかりな改訂を施
す。初演指揮者デッソフの進言及び具体的
なアドヴァイスも利いたようである。5部構
成で Rond 風だった第2楽章は、現行の3部
形式となった。

ブラームス、並びに彼と懇意だった楽譜出
版社ジムロックは、このハ短調→ハ長調交響
曲を「作品68」として出版する。調性や楽器
法でいくつかの共通項をもつベートーヴェン
の交響曲第5番ハ短調作品67を、ブラーム
スはさて意識したか。作品67の「運命」に続
くのは自分、この曲と。

第1楽章: ウン・ボーコ・ソステヌート～アレグロ

第2楽章: アンダンテ・ソステヌート

**第3楽章: ウン・ボーコ・アレグレット・エ・グラ
ツィオーソ**

**第4楽章: アダージョ～ピウ・アンダンテ～アレ
グロ・ノン・トロツポ・マ・コン・ブリオ**



キーワードでひもとく東京交響楽団70年の歩み

東京交響楽団と日本初演

文・奥田佳道(音楽評論家)

数々の初演が行われた日比谷公会堂。1959年9月28日の第100回定期演奏会では、石井敏<シンフォニカ・アイヌ>が世界初演された。
指揮:上田 仁(写真はペルリオース<幻想交響曲>演奏風景)

スラヴのオーケストラ曲を次々に日本初演

ヴィヴァルディの「四季」にショスタコーヴィチの交響曲が6曲、それに武満徹の出世作。みんな東響だ。

創立70周年を寿ぐ東京交響楽団の歩みは、時空を超えた楽の音の日本初演史を鮮やかに映し出す。

まずはスラヴ文化圏の作品から。

映画の東宝交響楽団として1946年春に産声をあげ、5年後の1951年に東京交響楽団と改称した東響。初代常任指揮者のひとり、上田 仁(在任:1946年~1964年)は当時の現代音楽、ことにソヴィエト社会主義共和国連邦(1922年から1991年まで存在した国家、通称ソ連)の作曲家たちに関心を寄せていた。結果ストラヴィンスキー(1882~1971)、プロコフィエフ(1891~1953)、ハチャトゥリアン(1903~1978)、ショスタコーヴィチ(1906~1975)のオーケストラ曲が相次いで紹介されるという、驚

くべき、しかし喜ばしい初演史が創られる。羅列をお許しあれ。

1948年 3月 ショスタコーヴィチ:交響曲第9番

1948年 4月 プロコフィエフ:「ピーターと狼」

1948年10月 ハチャトゥリアン:交響曲第2番「鐘」

1948年11月 ショスタコーヴィチ:交響曲第8番

1950年 1月 プロコフィエフ:交響曲第5番

1950年 5月 ショスタコーヴィチ:

交響曲第7番「レニングラード」

ディヴェルティメント風の楽想も舞うショスタコーヴィチの交響曲第9番(1945)と内に外に壮絶な長篇交響曲第8番(1943)が、1948年に日比谷公会堂で演奏されているという史実。ちなみに寶響(宝響=東響)のライバルだった日本交響楽団(1951年にNHK交響楽団と改称)が、ショスタコーヴィチの交響曲第5番を山田和男(一雄)の指揮で日本初演するのは、1949年2月の定期公演でのこと。日比谷公会堂はショスタコーヴィチ芸術の「聖地」だった。

東響から生まれた日本人作曲家の新作

上田 仁と東響の「本邦初演企画」は1950年代の中葉にひとつの佳境を迎える。1954年には、遅まきながらヴィヴァルディの「春」と「夏」がステージに響き、前年の暮れにムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルによって初演されたばかりのショスタコーヴィチの交響曲第10番が紹介され、さらにブリテンの「青少年のための管弦楽入門」やバーンスタインの「不安の時代」も演奏された。「秋」と「冬」の初お目見えもその頃。バッハに比べ、権威筋から低く見られていたヴィヴァルディの協奏曲集「四季」は、レコードはともかく総譜の入手が困難だったのだろう。いっぽうオペラやバレエの団体と共演することも多かった黎明期の東響は、チャイコフスキーのバレエやオペラの全曲演奏も行なっている。

相前後して、恐らく短縮版での演奏だったと思われるがラフマニノフの交響曲第2番、メシアン初期の「忘れられた捧げもの」（作曲：1931年）、ミュンシュ&ボストン響で1951年に初演されたオネゲルの交響曲第5番「3つのレ」の日本初演もあった。ほかジョリヴェにルーセル、ミヨー、チェコのマルティヌーと枚挙に暇がないとは、正にこのこと。

1950年代前半のコンサートマスターは、若き阿部富士雄にシベリアから帰還した黒柳守綱（黒柳徹子の父、第2次大戦前は現N響に在籍）である。私事で恐縮だが、第2ヴァイオリンの首席には筆者の父奥田道昭もいた。

武満徹の名曲「弦楽のためのレクイエム」を1957年6月の第87回定期演奏会で日本初演したのも上田仁と東響の功績だ。東響委嘱作品の第2弾。同時代の愛すべき日本人作曲家と歩み、創造の喜びを分かち合うという東響の美学は、1994年にコンポーザー・イン・レジデンス制度として実り、西村朗（1994年～1997年）、細川俊夫（1998年～2007年）の調べが公演を彩った。1994年と言えば、秋山和慶が第400回定期でシェーンベルクの「モーゼとアロン」に腕を揮った年である。

初演に燃え、近代の大作に挑み、古典に磨きをかけてきた東響は、第3代音楽監督ジョナサン・ノットに導かれ、かつてない高みを奏でるようになった。60年近く前の委嘱作「弦楽のためのレクイエム」と1954年11月の定期演奏会で日本初演したショスタコーヴィチの交響曲第10番を携え、今秋ヨーロッパに赴く東響に喝采を。



1953年「青少年シンフォニーコンサート」
での「ピーターと狼」
指揮：上田 仁
コンサートマスター：黒柳守綱
語り：ルースベルト大統領夫人



Jonathan Nott & Tokyo Symphony Orchestra

EUROPEAN TOUR 2016

October 20-27

Poland/Croatia/Austria/Netherlands/Germany

東京交響楽団

創立70周年記念ヨーロッパ・ツアー

～復興・交流・未来のために～

ヨーロッパ公演では、当楽団による数多くの初演曲の中から委嘱作品である武満徹《弦楽のためのレクイエム》を取り上げ、2016年に没後20年を迎える武満氏の欧州での再認識を図ります。それに組み合わせるのは、日本の版画にインスパイアされたドビュッシーの交響詩《海》と中欧の代表的作曲家であるブラームスの《交響曲第1番》です。

もう一方のプログラムは、ベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》と東欧を代表するショスタコヴィチの《交響曲第10番》。日本のフレーバーを大切にしながら、ノット&東京交響楽団らしい大胆かつ幅広い曲目で挑みます。

プログラムA

ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 二長調
ショスタコヴィチ：交響曲 第10番
(東京交響楽団1954年日本初演作品)

プログラムB

武満 徹：弦楽のためのレクイエム
ドビュッシー：交響詩「海」
ブラームス：交響曲 第1番

2016年

10/20 Thu ポーランド・プロツワフ(2016欧州文化首都)
国際音楽フォーラム

B

10/22 Sat クロアチア・ザグレブ(クロアチア独立25周年)
ヴァトロスラフ・リシンスキ・コンサートホール

A

10/24 Mon オーストリア・ウィーン
ウィーン楽友協会大ホール

A

10/26 Wed オランダ・ロッテルダム
デ・ドーレン・コンサートホール

B

10/27 Thu ドイツ・ドルトムント
ドルトムント・コンサートホール

A



指揮
ジョナサン・ノット



ヴァイオリン
イザベル・ファウスト



助成：平成28年度文化庁国際芸術交流支援事業 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション 公益財団法人朝日新聞文化財団

世界が聴いた富士の音 [1991年]



ニューヨークで開催された国連デー・コンサート(1991年)

日本＝ロボットの？

「正確に演奏するが、そこに感情はない」

海外の評論家が日本のオーケストラを評するとき、決まり文句のように出てくるのがこの言葉。それに対し、独ライニッシュ・ポスト紙は「この先入観は今日の事態から見ればひどくばかげている」と主張する。東響の演奏を聴いての感想だった。

創立45周年を迎えた1991年、1か月間におよぶワールドツアーに出かけた東響の演奏は熱狂を以て受け入れられた。アンコールにニルンベルクで《マイスタージンガー》を、ロンドンで《威風堂々》を演奏すると、これが思わぬ反響を呼び、英ガーディアン紙は「ちょっとしたセンセーションを巻き起こし、この『希望と栄光の地』の聴衆を完璧なまでに魅了した」と評した。

各公演の1曲目には名刺代わりの邦人作品も入っていたが、中でも注目されたのは三善晃の《連禱富士》である。多くの新聞が《春の祭典》を引き合いに出し、そこに踊ったのは「火山」の文

字。極東のオーケストラは西欧のレパートリーの良いところだけを取り入れているのではないと証明した。

国際連合本部にて

そして迎えた最後の地はニューヨーク、国連本会議場での「国連デー・コンサート」。ペレス＝デクエヤル事務総長の挨拶の後の演奏という状況に緊張の面持ちの楽員であったが、演奏が終わってみれば万雷の拍手。スタンディング・オベーションと笑顔がツアーを締めくくった。

それから四半世紀が経ち、世界の状況も大きく変わった。1991年当時、ユーゴスラビア紛争のまっただ中であつたために公演を断念したクロアチアの首都ザグレブで、今月末ついに東響の音が響く。

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ

新潟市準フランチャイズオーケストラ

<提携>公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

公式HP <http://tokyosymphony.jp>



1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、ミュージックペンクラブ音楽賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞している。また、2013年には川崎市文化賞を受賞した。

川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団とはパートナーシップ提携し、コンサートやアウトリーチ活動を展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においても53都市71公演を行い、国際交流の実を挙げた。

また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」「こども定期演奏会(サントリーホールとの共催)」は多方面から注目される。

録音や放送においても活発で、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等から多数リリースし、テレビ朝日「題名のない音楽会」レギュラー出演している。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的に開催。その募金は(公財)国際開発救済財団を通じて被災地に役立てられている。

2011年4月、内閣府より公益財団法人の認定を受け、2012年度より設けられた文化庁「トップレベルの舞台芸術創造事業」では、初年度4オーケストラに選定された。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。正指揮者に飯森範親、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁す。2016年には創立70周年を迎え、同年10月ウィーン楽友協会を含むヨーロッパ5カ国での公演を予定している。

Tokyo Symphony Orchestra (TSO) celebrates its 70th anniversary in 2016 and it will embark on a European tour including the concert at Musikverein Grosser Saal in Vienna with Music Director, Jonathan Nott, who has been Music Director since 2014 season and recently extended his tenure to 2026

TSO has a reputation for giving first performances of a number of new contemporary music and opera including Requiem for Strings by Toru Takemitsu as a commissioned work in 1957. Through these activities, the orchestra has received most of Japan's major music awards such as the Minister of Education Award, the Grand Prix of Kyoto Music Award, Mainichi Art Award, Agency for Cultural Affairs Art Award and Suntory Music Award. In 2013, the orchestra received the Kawasaki City Culture Award, which is given to an individual or organization in recognition of their remarkable efforts in developing and advancing culture and the arts in Kawasaki City.

Since becoming the resident orchestra of the City of Kawasaki in 2004, a semi-resident orchestra agreement with the City of Niigata in 1999, and a partnership agreement with Hachioji College Community & Culture Fureai Foundation in 2013, the orchestra has been enthusiastic for school concerts and community events.

Moreover Tokyo Symphony Orchestra has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

Outside of Japan, the orchestra has performed 71 concerts in 53 cities since 1976.

<http://tokyosymphony.jp>

楽団の最新情報はこちら



facebook

<http://www.facebook.com/tokyosymphony>



twitter

@Tokyo_Symphony

【活動紹介プロモーションビデオ好評放映中!】

永久名誉指揮者アルヴィド・ヤンソンスが初来日した際の貴重な映像、ワレリー・ゲルギエフ、細川俊夫、準・メルクルのインタビュー(登場順)、日本初演した数々の声楽付オペラ大作、さらには音楽監督ジョナサン・ノットをはじめとする歴代指揮者陣、東京交響楽団がフランチャイズ契約する川崎市でのアウトリーチ活動等をご覧ください。



Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Brochure

Symphony

Symphony 2016年(平成28年)10月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュージアムセンターラタワ 5階 TEL044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト